公開講座

高齢者ケアに脳科学の知見をどのように取り入れていけばいいのか

講師

成本迅

京都府立医科大学准教授

［専門］老年精神医学／
精神疾患のニューロイメージング

2/20 Sat. 2016

エビデンスを持った高齢者ケアがいわれるようになって久しくなります。日本老年行動科学会では、ステップ式仮説検証型事例検討の開発を行ってきましたが、これらの実践の中で、大きくは身体面、精神面、心理社会面の3つの枠組みから対象者の行動を理解することの重要性を実感してきました。昨今の脳科学の進展には著しいものがあります。脳科学の知見を高齢者ケアに取り入れられないものか、取り入れられるとしたらどのようにしていったらいいのか。この問いに対して、ヒントを得るべく公開講座を開催いたします。奮ってのご参加、お待ちしています。。

ケアの対象となる高齢者の場合、変性疾患や老化に伴う変化、そして精神症状が複雑に絡み合って複合的な症状を呈することが多くあります。このため、脳梗塞や脳損傷の症例の詳細な検査をベースとした神経心理学とそれに基づくリハビリテーションから得られる知見を高齢者ケアに取り入れることは難しい面があります。ケアの質向上のために脳科学の知見をどう活かしていったらいいのか、関連する脳科学の最近の話題を紹介し、考えていきたいと思います。［**成本迅**］

13:00-16:00［開場12:30］

筑波大学東京キャンパス文京校舎
［1階・119教室］

文京区大塚 3-29-1
［丸の内線「茗荷谷駅」より徒歩3分］

定員◆◆◆90名
参加費◆◆◆会員無料／非会員500円
事前申込◆◆◆不要

お問い合わせ　日本老年行動科学会◆FAX03-3942-6324◆jsbse@unicoop.or.jp

終了後、大学内（教員ラウンジ）で講師を囲んで懇親会を行います。どなたでも歓迎いたします。とっておきの一品（飲み物あるいは食べ物）をご持参いただくか、会費1000円でご参加いただけます。

主催◆**日本老年行動科学会**